駒澤会だより

第１６号
２０１１年7月２６日
駒澤大学駒澤会発行

ご挨拶

会長　井上俊夫

このたびの東日本大震災によって、甚大な被害を受けられた駒澤大学関係者の皆様、そしてすべての被災者の方々に、衷心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。駒澤会会員は、岩手・宮城・福島県で７名の方が被災しましたが、人的な被害はありませんでした。前例により会から、お見舞いをさせて頂きました。在学生は約２，３００名のご父母が被災地域に住まわれており、先般大学からの依頼により、被災学生支援金のお願いをさせて頂きました。ご協力の程、よろしくお願い致します。

さて会員の皆様には、日頃から会の運営にご協力ご指導を頂き有難うございます。お陰さまにて計画通りに進んでおりますこと、感謝申し上げます。

前年度は、下記の事業を重点に進めて参りました。一つ目は駒澤会創立４０周年（Ｈ２３年１０月１５日）を迎える準備として、４０周年記念事業実行委員会を立ち上げ、資料の収集・記念誌発行の検討など、活動を開始しました。二つ目は、当会の活動を積極的に情報発信することにより、大学関係者・教育後援会の皆様の理解度向上を図り、会員数の増加を念頭に活動を行いました。具体的には、２泊３日の秋の研修会（永平寺での参禅会）や忘年会などに遠方からご参加頂いたり、賀詞交歓会２次会には、大学関係者や同窓会の方々がご参加くださり、催し物全体が和やかな雰囲気で親睦が深められたと自負しております。

今年度は例年の活動に加え、１１月に４０周年の行事を計画しております。これから具体的な検討を進め、別途ご案内を差上げますが、大勢の皆様にご参加頂きたくお願い致します。

微力ではありますが駒澤会発展のため、今後も着実に活動を進めて行きたいと考えております。皆様の一層のご理解・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

駒澤会参与のご紹介

教育後援会会長
参与　松浦　雅人

平成２３年度も教育後援会の会長･副会長に参与をお勤めいただいております。

更なる駒澤会の発展のため、若いお力を頂戴できればと思います。

教育後援会副会長
参与　岡田　久美子

駒澤会４０周年に向けて

駒澤会４０周年記念事業実行委員会委員長　森屋正治

まず初めに、改めて３月１１日に起きました東日本大震災並びに福島原子力発電所の放射能汚染に対しまして、被災された方々には謹んでお見舞い申し上げます。一日も早くの復旧と復興と原発が早期の安定化に向かい、心の平穏を取り戻せる様願ってやみません。

さて、駒澤会も昭和４６年１０月に発足し、本年で４０周年を迎えることとなりました。発足当初より、卒業生父兄会ＯＢの有志の方々が卒業後の相互親睦をはかり、大学の興隆発展のため、特に奨学金給付制度を確立して少しでも大学に寄与していきたいという念願でございました。昭和５７年に学生に初めて支給できる様になったことと聞きおよんでいます。

そして今までに約１０００名の学生に奨学金を授与することができました。これも偏に歴代会長はじめ役員の方々の御尽力、また会員はもとより、大学当局・宗門を始め関係各位の御協力御支援の賜物と敬意を表すとともに感謝申し上げます。

４０周年記念事業を遂行するにあたり、不肖私が実行委員長に推挙されましたが皆様方の御協力なくしては前進いたしません。何とぞ宜しくお願い申し上げます。今日まで実行委員会を何回か開催させて頂き、役員会の承認を受けながら進めております。周年行事の計画が決定している所をご報告させて頂きますと、１１月１２日（土）に祝賀会を開催致し、駒澤会発足当初より祝賀会当日までを収めた記念誌の発行を予定しておる所でございます。

また、この機会に駒澤会も尚一層の飛躍を遂げ大学発展に寄与する為にも記念募金をお願いする事を考えていますので、皆様方には大変お世話をお掛け致しますが、何とぞご理解を頂きます様お願いを申し上げ、４０周年記念事業に向けての御報告とお願いとさせていただきます。

駒澤会と共にお手伝いをして

駒澤会顧問　高見静子

駒澤会副会長を退いてから、聴講生として学校に学ばせていただき充実した日々を過ごさせていただいております。

先日も学期末の教授を囲む親睦会で学生に「僕、平成３年生まれです」と言われ、我が家の息子が駒澤大学に入学した年に誕生した赤ちゃんが大学生になっていたのに驚かされ、教育後援会、駒澤会とで２０年の歳月を駒澤大学にご縁をいただいていたことを改めて認識させていただきました。

その中、駒澤大学の幅広い活動があることを何時も驚き感動しながら、ときにかかわり、ときに見学、学ばせていただいて来ました。

駒澤大学では在校生、卒業生でスポーツ系だけでなく、いろいろな方面で御活躍されている方々がいらっしゃいます。大学事務局の佐藤部長はじめ皆様がその活躍を支えていらっしゃいます。

今回のふれあい寄席「駒沢落語会」は駒澤大学法学部教授　西修先生を中心に駒澤大学と地域、近隣の皆様の掛け橋となり皆様の栄養剤となれるよう、１０年間の長きに渡りご尽力なさり、少しずつ盛んになってきました。今日の立ち見が出るほどの大盛況は、その一番のはっきり目に見えた成果だと思います。

１０年の間、貢献なさった皆様のご努力の結果に他ならないのですが、残念なことに今回、西修教授の定年退職にともなって、最終公演となり長い間駒澤会員としてお手伝いなさった水谷御夫婦、青木米蔵氏と共に表彰いただき誠に恐縮し、少しでも何かのお役に立てさせていただけたことを感謝している次第です。

他にも大学の外に向けた活動は、女性ＯＢ会で講師の先生をお招きして講演していただいたり、御茶道の茶会を開かれたりなさっていたように記憶しております。

何とも華やかなのは陸上競技部出身のシャンソン歌手黒木悦子さんのディナーショーなどもありました。

現在ご縁をいただき、大学のなかでも世界に誇る事のできる教授陣のそろった仏教学を学ばせていただいてます。仏教学は勉強をするほどに深く、高くお釈迦様の教えに広がっていきます。現在のゆらいだ世相に、この教えを根底に置く駒澤大学の教えが望まれて、益々の発展のあることを確信しております。

高見静子さん

定年退職された西修先生。「またも家楽大」改め「ようやく卒業」を襲名されました。

平成２３年度駒澤大学駒澤会委員総会報告

総務部　山田直重

平成２３年度駒澤大学駒澤会委員総会が、５月２８日（土）に駒澤大学深沢校舎の講義室２－１において開催されました。定刻の午後２時になると、総会に先立ち東日本大震災での多くの犠牲者に対し、出席者全員が起立し黙祷を致しました。その後、進行を務められる駒澤会総務部三崎章子部長による開会の宣言により委員総会が開会しました。

初めに駒澤会名誉会長である田中良昭駒澤大学総長よりご挨拶を頂きこれまでの奨学金授与による学生支援活動への感謝の念と今後の奨学金継続に対する期待を述べられました。次に駒澤会井上俊夫会長が挨拶をされ、東日本大震災の東北の被災地にお住まいの会員が７名いらっしゃる事や、今年が駒澤会発足から４０周年と節目の年である事、それに伴い記念誌発行などの計画がある事などを述べられました。

ここから慣例により井上俊夫会長が議長となり議事に入りました。まず議題の第１項で平成２２年度各部活動報告が、総務部は三崎章子部長より、広報部は鈴木康元部長より、また厚生部は田邊隆子部長の代読で木村朋子副部長より報告されました。次に第２項平成２２年度決算及び基金管理状況報告、また第３項会計監査報告が三宅哲也監査より行われました。続けて議題の第４項平成２３年度各部活動計画で各部の部長が今年度の計画を発表されました。また、第５項駒澤会４０周年記念事業については森屋正治副会長が４０周年記念事業実行委員長として事業の説明を述べられました。今のところ仮予約ではあるが１１月１２日（土）に駒澤大学深沢校舎で４０周年記念祝賀会を計画している事や学生支援の基金積み増しのため寄付金を募集する計画があり駒澤会の皆様に一層のご支援を賜りますように等を述べられました。議題の第６項平成２３度予算案、第７項その他と予定の議題を終了したところで議長が質問等の受け付けをされましたが質問等なく全ての事項が承認されました。

以上、報告事項および審議事項を滞りなく終了し午後３時に委員総会は閉会となりました。委員総会のなかでは会計の報告や基金管理状況の報告は資料を添えて細部に亘り丁寧な説明をされました。そのことにより現在の超低金利時代の中において駒澤会の柱となる奨学金授与による学生支援活動を今の形のまま継続して行く事が大変に厳しい状況にある事が明確に浮かび上がっていると知らされた委員総会でした。

平成２２年駒澤会忘年会の報告

厚生部長　田邊隆子

平成２２年１１月２７日（土）駒澤会恒例の忘年会が港区の愛宕グリーンヒルズ MORI タワーの２階「J.H.V　Wine&Marriage」で、会員２９名が集い、盛大に開催されました。東京タワーを横目に歩き、こんな機会でもなければ足を踏み入れないようなファッショナブルな景観の中に MORI タワーはありました。迷うことなく会場へ着くと、下見の時とはまた違った雰囲気の洗練された空間があり、様々なご無理を聞いて頂いたお店のスタッフに感謝です。

井上会長のご挨拶に始まり、田中副会長の乾杯のご発声で会食が始まりました。腕自慢のシェフが腕によりをかけた心づくしのフランス料理のフルコース、このお料理が本当に絶品でした。味はあっさりめでしたが、薄いというわけではなく、素材を生かした味と工夫があり、お料理の一つ一つがワインによく合っているといった印象でした。お料理の数だけワインを何種類も頂きました。それもワインの専門店というだけあって、よく吟味された極上のワインばかり、正に至福のひと時でした。

今回は、京都から西寺様もご参加され、周りの方々と和やかに歓談されていました。また、現在病気療養中の厚生部委員の渡邉さんからは手作りの独楽が皆さんにプレゼントされ、お正月を控えてタイムリーな贈り物と皆さんには大変好評でした。

楽しい語らいで乾いた喉を食後のドリンクで潤したころ、赤堀副会長の閉会のご挨拶があり、平成２２年度駒澤会の忘年会は閉会となりました。最後にご参加いただきました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

狂言師　善竹十郎さん

渡邉さんが作成した独楽

教育後援会主催「新年賀詞交歓会」報告

総務部

平成２３年の教育後援会主催新年賀詞交歓会は、平成２３年１月８日（土）午後２時より、教育後援会会員・委員、同窓会役員、教職員、駒澤会維持会員の方々の出席により、ホテル・ニューオータニ「芙蓉」にて開催されました。

和やかな歓談が続く雰囲気の中、本学卒業生のジャズシンガー「平賀マリカ」さんによるジャズの熱唱が披露されました。歌声は会場いっぱいに響き渡り、出席者の誰しもが感嘆する大変素晴らしいものでした。

恒例の福引き抽選会も大いに盛り上がり好評でした。駒澤会が提供した、駒澤会特別賞を引き当てた出席者の方は、新年早々の大当たりに感激ひとしおの様子でした。
駒澤会からは吉田監査が見事２等を引き当てました。

平成２３年の新年賀詞交歓会は和やかで華やいだ雰囲気の中、お開きとなりました。

駒澤会の二次会には、「牧祐弘」特別顧問、陸上競技部部長の「廣瀬良弘」先生、同窓会の「越後宏允」会長他、多数のご参加をいただきました。

二次会も、賀詞交歓会の熱気そのままに出席者同士の会話が続き、時間の過ぎるのを忘れるほどでした。二次会は出席者一同、駒澤会の益々の発展を願い、名残りを惜しみつつ散会となりました。

駒澤会特別賞おめでとうございます

２等を引き当てた吉田さん

「初夏の親睦会」を終えて

厚生部　山崎とし江

「浅草散策とスカイツリーを見ながらディナー」、この心が躍るような企画で、恒例の初夏の親睦会が行われました。

６月１１日土曜日、朝まで降っていた激しい雨も、浅草駅集合時間の午後３時にはすっかり上がり、駒澤会の皆さんの日頃の心掛けを反映しているようでした。

早速、観光客で大賑わいの仲見世通りから浅草寺へと歩き、参詣や記念撮影を済ませた後、脇にそびえる五重の塔を見物し、改めて歴史の重みと建築美に圧倒されました。その後隣の浅草神社を参拝して、夜のディナー会場へと向かいました。途中、日本で初めてのバーという「神谷バー」に立ち寄り、名物である「デンキブラン（ブランデーをベースにしたカクテル）」をいただき、下町の風情を味わうことができました。明治１５年以来ずっと庶民に親しまれてきたというだけあり、痺れる口当たりは、浅草散策に一層彩りを添えてくれました。

吾妻橋を渡ると、隅田川に面したアサヒビール吾妻橋ビルの２２階に位置するディナー会場「リストランテ　ラ・ラナリータ」に到着しました。一歩足を踏み入れると、大きなガラス越しに、完成間近のスカイツリータワーが高くそびえ立ち、何も寄せ付けない堂々としたその雄姿には、誰もが思わず歓声を上げる程でした。スカイツリータワーを目の前にし、夕暮れとともに眼下に輝く美しい夜景を眺めながら、豪華なイタリアンのディナーに舌鼓を打ち、楽しく語らい、至福のひと時を過ごすことができました。

井上会長をはじめとする２６名の参加者全員が、親睦を一層深めることができた有意義な一日でした。

会員紹介

ピ　ア　ノ　と　私

監査　三宅哲也

およそ１２年前、４０年間勤めた会社員生活に定年で別れを告げ、「毎日が日曜日」の生活に入った。それを機会に高校生以来遠ざかっていたピアノレッスンを再開し、毎月２回のペースで先生の下に通うようになった。その時から著名な女流ピアニストのM先生のお世話になっているので、先生とのお付き合いは既に１０年を越えている。

高齢になって新しくピアノレッスンを始めたのは、現在所属している「ピアノ同好会」であまりにも大きなショックを受けたからである。６０歳過ぎくらいに偶然友人から入会の誘いがあり、加入を認めて頂いてからこちらも１５年近くなった。「ピアノ同好会」は高齢男性ばかりのアマチュアピアニストの集まりだが、私から見ればとんでもないハイレベルの会で、相当の難曲を初見ですらすら弾く人、還暦を機会にラフマニノフの協奏曲２番をアマのオーケストラと共演し、それをＤＶＤに入れて友人知人に配った人、その果てはベートーベンの「皇帝」全３楽章を総て暗譜で弾きこなす元会社員など、到底足元にも及ばない。　これでは一生やっても惨めな思いをするばかりだと痛感して、先生に付く事にした。

M先生は既に現役は引退されているようだが、初歩の生徒の教育にも慣れておられるようで、練習を指定される曲は始めは到底無理だと思いながら四苦八苦しているうちに何とか弾けるようになるから不思議である。昨年暮れかなりの難曲と思われるバッハのゴールドベルグ変奏曲全３２曲をようやく終わったが、その次のご指定がショパンの練習曲集全２７曲とは大変驚いた。楽譜を見ただけでも何処から手をつけてよいか分らない難曲に見えるが、毎日苦労しているうちに何とか少しは弾けるようになるから不思議である。もちろんプロの弾くような速度では到底無理で、練習していると、たどたどしくではあるが一応それらしく聞こえてくるのが最大の楽しみで、毎日頑張っている。

「ピアノ同好会」の発表会が毎年３月と９月にあり、そのためにも毎日２時間以上の練習が必要なのだが、レッスンが終わるとほっとして直ぐ休みたくなるのが最大の欠点だ。そのため毎日ピアノに追われているような焦燥感の中で暮らしているが、この辺が老人のボケ防止に役立っている理由かも知れない。

ピアノのレッスンをする三宅さん

会員紹介

「大震災復興支援－地方の１僧侶の活動」

広報部　菊地英昭

駒澤会会員の中で、曹洞宗寺院のご住職が多数おられますが、今回は当会広報部の役員で、神奈川県第二宗務所第７教区の興全寺住職菊地さんにインタビューしました。平成１８年、１９年に本学仏教学部を卒業された菊地さんのお弟子さんが、１人は永平寺、もう１人は総持寺で３年間の修業を終え、それぞれの道を歩んでいらっしゃいます。

―　菊地さんはお寺の仕事以外でいろいろやっていらっしゃると聞いておりますが、例えばどんな・・・？

菊地：私の寺は檀家さんが少なかったので、私は住職しながら、１０年間中学校の教員を務め、その後大学院で勉強しなおして高校や大学で教鞭をとり、7年前から東京理科大学の講師（教育法規）を勤めております。教育畑を歩いて、もうかれこれ４０年近くになりますね。地域の国際交流協会を創始し、ネパール支援のＮＰＯ法人やライオンズクラブでの活動にも参加させていただいております。

―　お弟子さんが２人おられると伺いましたが・・・？

菊地：息子は総持寺、甥は永平寺でそれぞれ３年間修行して、息子は自坊や本山の手伝い、甥は東北の大震災のボランティアに応募し、もう２カ月以上現地に入り、それまで勤めていた会社も辞めて打ち込んでいます。甥の親たちは心配しているのですが、彼は無報酬で瓦礫撤去と被災者の支援に生きがいを感じているようです。

―　今回の津波や原発事故で、お寺関係も大変な被害があったんでしょうね？

菊地：曹洞宗だけに限っても、津波で流失、倒壊した寺は宮城県だけでも３１寺院、岩手が６寺院という情報もあります。仏教界全体のデータは今のところわかりません。

―　曹洞宗でも被災寺院の支援活動が盛んだと聞いてますが？

菊地：おっしゃる通りです。たとえば神奈川県第二宗務所管内では、仙台市若林地区で被災した寺院の瓦礫撤去と宮古地域での食糧補給（料理サービス）で２回に渡って、若い僧侶たちが横浜からバスで駆けつけています。わが家の息子も二度とも参加させていただいて、想像以上の悲惨な光景にかなりショックを受けて帰ってきました。

―　宗門でも懸命に参加しているんですね？

菊地：みんなそれぞれ地道に活動しておるけれど、マスコミでは紹介されないので知らされていないだけです。私自身、茅ヶ崎駅、寒川駅で３回募金活動に参加しました。自坊でも募金箱を設置して檀家の皆さんに訴えています。

―　最後に一言お願いします。

菊地：本学でも、東北出身のたくさんの被災者がおり、人ごとではありません。この未曽有の国難には、国民一丸となって復興を支援しなきゃという思いでいっぱいです。

会員紹介

自分史

厚生部長　田邊隆子

昭和２７年７月８日群馬県高崎市で生を受けた私は、「隆子」と命名された。父が西郷隆盛に心酔しておりその一字を頂いたとのこと。３人姉妹の末っ子で無類の父親っ子だった私は、殆ど父の膝の上で育ったと言われた。現在の私からは想像もつかないと思うが、子供のころから病弱で入退院を繰り返していた。２０歳のころ、開腹手術を受けた。当時はまだＣＴなどない時代だから、「とにかく中がどうなっているのか切ってみなければわからない」と医師はいった。私はまな板の鯉になるしかないと覚悟を決めた。結局手術して初めて先天的に内臓の奇形があったことが判明し、「よくもこんな体で今まで生きてこれたもの」と感心された。大体３歳までに殆ど死んでしまうのが多く２０歳まで生存していたのはあまり例がないのだそうだ。「親がよほど大事に育てたのだろう、親に感謝しないと罰が当たるぞ」といわれた。それから痩せていた私は１カ月に１キロのペースで太り始めた。４０キロしかなかった私が１年後には５２キロになっていた。その頃知り合ったのが現在の夫、知り合って１年後に求婚された。海のないところで育った私は海辺の町に対する憧れが強かった。その頃流行っていたのが小柳ルミ子の「瀬戸の花嫁」、両親の心配をよそに、私は瀬戸の花嫁になった。「一生大事にするよ」と約束した夫の言葉を信じて。あれから３６年が過ぎた。

二人の子供にも恵まれ、子育てに明け暮れ、ふと気づいたらすっかりおばさんになっていた。今からでも遅くないかな、と思い社会復帰したのが４２歳のころ、手始めに健康診断の会社に就職し、医学の勉強をし直した。それから３年後、企業の健康管理室に請われて行くことになった。そこで社員の健康診断の事後指導とメンタルヘルスに取り組んだ。

看護師の資格は持っているが、メンタルヘルスは新たな分野である。責任ある対応をするために、専門的な知識が必要になり、会社勤めの傍ら産業カウンセラーの養成講座に通い資格を取得した。しかし、まだ勉強が足りないような気がしていた。数年後放送大学の門を叩き、７年かけて卒業を果たした。

企業を退職してもなお、メールや年賀はがきで近況を知らせてくる社員たちが心身ともにいつまでも元気で社会生活が送れるようにと願っている。

←　20歳前後の田邊さん　→

駒澤会奨学金について

平成２３年度も１人２０万円を２５人に、総額５００万円の奨学金が支給されます。奨学金授与式は７月２０日（水）に学長、駒澤会会長・副会長出席のもと執り行われます。詳細は駒澤会４０周年記念号及び駒澤会ＨＰでお知らせいたします。平成２３年３月卒業生のご父母から多くの入会金（奨学金基金）をいただきました。改めて御礼申し上げます。

各部入部のお誘い

維持会員の皆様へ

駒澤会では、維持会員としてご登録頂いている皆様に、各部への入部をお誘いしています。会の運営を３つの部に分かれて担当して頂くことになりますが、近郊の方又は遠方でも２～３カ月に一度の会議に出席いただける方は是非ご検討ください。
皆様の入部をお待ちしています。希望される場合は、事務局：田村までご一報ください。

ＴＥＬ：０３－３４１８－９１８９　　ＦＡＸ：０３－３４１８－９１９０

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、駒澤会の活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。女性もたくさん活躍しています。

広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やＰＲ活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、率直に意見を出し合い、和やかに進めています。

厚生部

行事や企画の準備で会員が楽しく有意義な時間を過ごせるよう活動しています。旅行好きな会員も多いため、なかなか訪れる機会のない場所など考え活動しています。

基金管理委員会からのお知らせ

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。
今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	４月～６月までの利金	備　考
三菱ＵＦＪモルガンスタンレー証券	２５３，２３９円	グロソブ（毎月決算型）
みずほ銀行	１，８１５円	定期・普通預金利息
世田谷信用金庫	４５５円	定期・普通預金利息
合　　計	２５５，５０９円	

基金管理委員長　赤堀 菊絵

編集後記

広報部　鈴木康元

東日本大震災、津波が被害を拡大した。３月１１日午後２時４６分、太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード９．０の巨大地震が発生し、宮城県で震度７、福島県・茨城県・栃木県で震度６強など、広範囲で強力な揺れが観測された。１０メートル～２０メートルの津波が太平洋沿岸を中心に観測され、岩手県宮古市の田老地区で津波の這い上がった高さが３７．９メートルを記録した。各地を襲った津波は防波堤をのりこえ、家々を襲い多くの命を奪った。あの日何が起きたのか、津波の破壊力はギネスに載っている世界一の防波堤を乗り越え、大災害を発生させた。

一方福島県では原子力発電所は地震と巨大津波でレベル７の事故による災害等を発生し、現在も進行している。原発のメルトダウン・メルトスルーは、今もなお日本はもとより、世界の注目となっている。そんな中、ねじれ国会は混迷し、震災復興の動きは鈍く、原発危機による放射性物質が外部に漏れ拡散が進行し、被害の拡大を止めようがない。そのため風評被害による経済の鈍化も否めない。政府による復興策具体化も進まず、大震災から３か月が過ぎた。

この夏は電力不足も重大なる影響が予想される。また今なお避難生活者はなおも９万人、復興の動きが鈍く、農林水産業の失業者が先の見えない毎日を送っている。私も微力ながら数千円の募金と、チャリティーに参加させていただいた。

追伸　＜駒澤大学東日本大震災被災学生支援金＞

平成２３年３月１１日に発生した東北地方太平洋沖地震によって、災害救助法適用地域に本学学生の保証人住所のある学生だけでも２０００人近くを数え、また平成２３年度入学生３４０人が該当いたします。震災によって家や家族を失い、大学での修学を継続するために、さらなる援助を必要としている学生も多数いるものと推測されます。被害を受けた本学学生の修学継続を支援するために何卒ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

私も駒澤大学との絆で色々な事を学びました。奈良康明先生は仏教の中の親しい人との別れ「悲しみを直視して生きる」、家族や友人との死別ほど辛いものはありません。親しい間柄であればあるほど悲しみは大きくなります。「もっと何かできる事があったのでは」と自分を責めたり、運命を恨むこともあるでしょう。そのような悲痛な思いを乗り越えるためにどうしたらいいのでしょうか。

寄付金は１口３，０００円、２口以上お願いします。私も寄付させていただきました。

事務局からのお知らせ

学校行事

７月	２９日（金）	前期授業最終日
９月	１６日（金）	後期授業開始
１０月	１５日（土）	開校記念日
１１月５・６日（土・日）		オータムフェスティバル

駒澤会行事

１０月	中旬	秋の研修会
１０月１５日（土）		４０周年記念日
１１月１２日（土）		４０周年記念パーティー
１２月	下旬	４０周年記念誌発行

駒澤会だより　第16号

発行日：平成23年7月26日　発行者：駒澤大学駒澤会　広報部
154－8525　世田谷区駒沢 1-23-1　TEL：03－3418－9189　FAX：03－3418－9190
駒澤会ホームページ＜駒澤大学ＨＰより＞
http://www.komazawa-u.ac.jp　→　在校生父母の方　～　駒澤会クリック

駒澤会は本年度
設立40周年を迎えます

駒澤大学
駒澤会